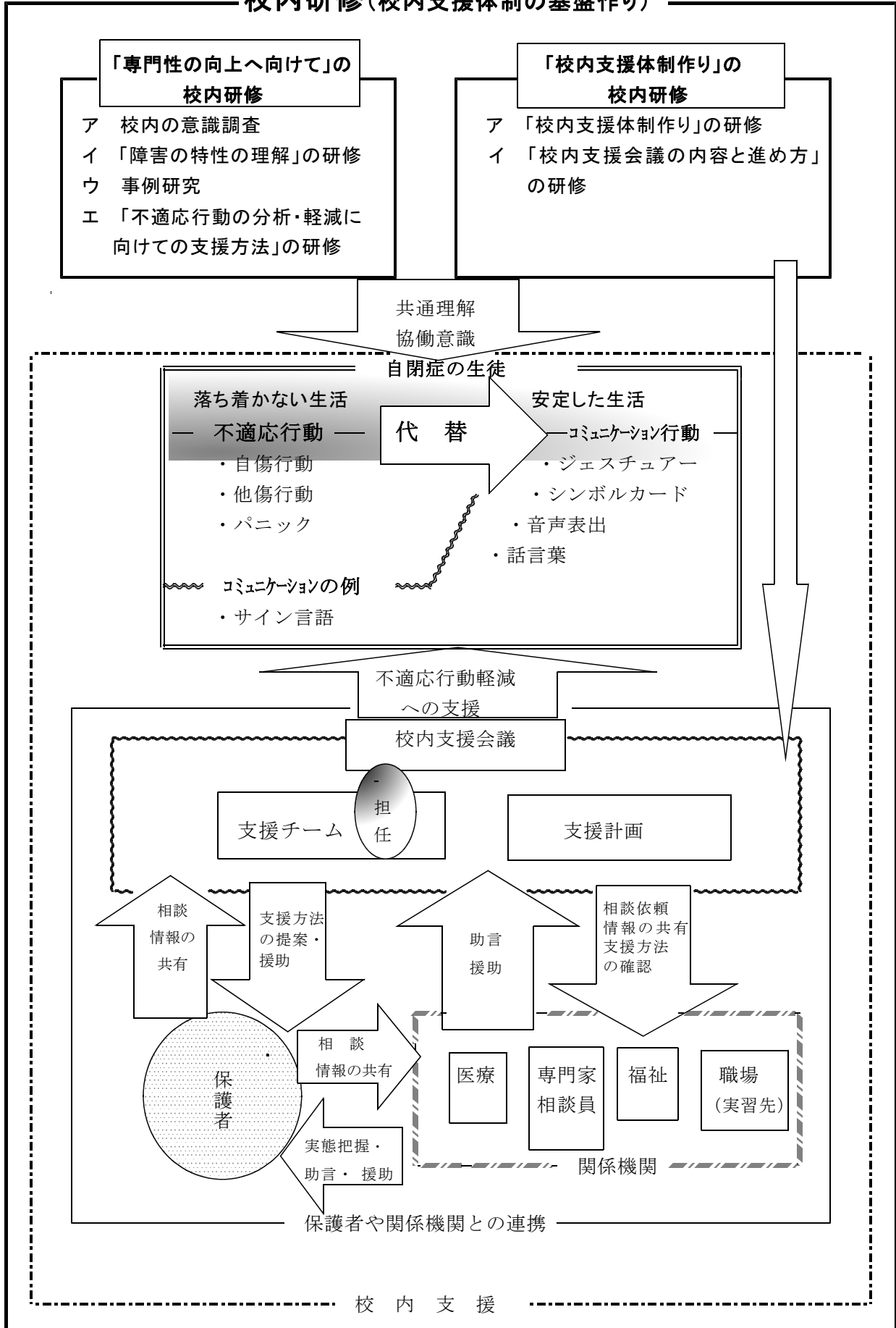


校内研修(校内支援体制の基盤作り)



資料2 不適応行動のリストとその要因

不適応行動	具体的な行動例	考えられる要因	
他傷行為	たたく、殴る、蹴る、相手にもものを投げる、引っかく、つねる、頭で突く、相手の目を突く、噛みつく、つばを吐く、抱きつく	注目 要求	注意をひきたい、不安、不満 不快、緊張 やりたいことがある
自傷行為	顔・頭をたたく、顔・頭以外の身体部分をたたく、身体部分を打ちつける、傷いじり、爪をはぐ、髪や毛を抜く、四肢を噛む、嘔吐する	感覚 逃避 注目 要求	気持ちよい 身体の異常 注意をひきたい 苦痛、飽きた、緊張、混乱 空腹
物壊し	(ガラス、家具、ドア、茶碗、椅子、眼鏡など) 器物破損、服破り	逃避 注目 要求	不安、不満、不快 注意をひきたい やりたいことがある
動き	徘徊、とび出し、多動、動かない	逃避 注目 要求	不安、混乱 注意をひきたい やりたいことがある
声	奇声、うなる、大声、泣き叫ぶ、暴言、独り言	逃避 注目 要求	不安、恐怖、不満、苦痛 注意をひきたい やりたいことがある、空腹、身体の異常
常同行動	興味のパターンに没頭、感覚刺激(身体揺らし、跳びはね)、道順・手順へのこだわり、物への執着、行動への執着	感覚 逃避	気持ちよい 不安

参考資料(「行動障害の理解と援助」 コレール社)

資料3-① 「自閉症について」校内意識調査のアンケート結果

() は回答者数を表す。

<p>① 自閉症の生徒の中で、指導上困っている生徒がいますか。</p> <p>ア 担任する生徒にいる クラスに3人 (1)、2人 (3)、1人 (6)</p> <p>イ 教科担当する生徒にいる 2人 (5)、1人 (5)、3人 (2)、11人 (1)</p> <p>ウ いない (4)</p> <p>② どんなことで困っていますか。また、今までに困ったことはありますか。</p> <p>ア 友達との関係 (11)</p> <p>イ 他傷行為 (8)</p> <p>ウ 自傷行為 (12)</p> <p>エ 教室(学習・生活の場)からのとび出し (6)</p> <p>オ すぐかっとなる、いらいらしている (11)</p> <p>カ 指示が伝わらない、行動に移せない (12) (その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉が不明瞭で訴えが聞き取れない。 同じことを繰り返し大声で言う。 興奮してくると指示が伝わらなかった。 友達にしつこくかかわったり、大声で叫んだりしてしまう。 反・非社会的行動をおもしろがり、どんどんエスカレートしていく。 	<p>③ 上記で困っている行動について</p> <p>ア 自閉症の障害について知りたい。(8)</p> <p>イ 困った行動を理解する方法を知りたい。(14)</p> <p>ウ 困った行動に対する支援の方法を知りたい。(24)</p> <p>エ 困った行動に対する相談をしたい。(2)</p> <p>オ 校内の支援体制について知りたい。(3)</p> <p>④ 地域のセンター的機能として自閉症等のある子どもの相談を受けることができますか。</p> <p>ア 自信をもって相談に当たることができる。(2)</p> <p>イ 内容によっては難しいと思う。(15) (難しいと思う内容や理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> どの程度までが障害といえるかがよくわからないため相談の対応に自信がない。 自閉症の範囲があまりにも広い。 自閉症児への対応について専門家の考え方と異なる考え方をもつことがある。 激しい自傷・他傷行為に対しての支援の方法が難しい。 専門的な知識をもっと身につける必要があるから。 軽度発達障害の生徒の対応 年齢が高くなってからの指導 保護者が我が子の障害を受け入れられない場合への対応 性的な問題 反・非社会的な問題であったとき
--	---

資料3-② (ア) 「自閉症の認知面の特性理解」の研修後のアンケート結果 (回答数 28人)

夏季研修参加者42名 (内) 地域の小・中・養護学校職員10名

(感想)	
<ul style="list-style-type: none"> ・自閉症の理解の第1ステップとして大切な研修だった。できればこの次の段階の研修が望まれる。 ・いろいろな視点から自閉症について講演していただき、参考になった。 ・内容が専門的すぎた。自分が知りたい内容ではなかった。 ・認知処理という面から生徒を見てみると、また違った見方ができることに気付かされた。 ・ちょっとカタイ話だった。 ・認知処理からの自閉症の理解と支援について演習を交えての話だったのでわかりやすかった。 ・認知とはどういうものか分かった。 	

資料3-③ (イ) 「自閉症のコミュニケーションの指導」についての研修後のアンケート結果

(回答数 38人)

○支援方法について	回答数
どんな支援方法があるか理解できた	29人
もっと研修したい	9人
よくわからなかった	0人
○支援方法の活用について	
活用している	8人
今後活用したい	19人
もっと具体的に研修したい	11人
(その研修内容は)	
TEACCH(構造化)	6人
太田のステージ	6人
マカトン・動作法・VOCA	6人
不適応行動のアセスメント	6人
ソーシャルスキル・ストーリー	6人

(感想)	
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方法がわかったので勉強になった。 ・盛り沢山の内容で、その中からこれは使えそうというものを選んでやっている。 ・具体的な指導場면을紹介してほしい。 ・問題に対して支援方法が何がよいのか対応して挙げられていて参考になった。 ・認知面を引き上げていくことが大切だと思った。 	

資料3-④ ウ 事例研究会資料の様式と事例研究後のアンケート結果 (回答数 22人)

(感想)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ストレートに発達課題から話に入り、具体的にどうかかわっていったらよいか事例研究の大切さがわかった。また、ぜひケース会議を開いて欲しい。 ・本校生徒の現状を多くの職員で共有し、医者の見解も伺いながら対応方法を模索でき、視界がひらけた。 ・日常生活の様子を見ていない医者の見方よりも、私達が日々接している中での見方を大切にされた方がよいと思う。 ・もっと少人数で話し合った方が活発な研究会になった気がする。 ・一般論ではなく日常的に目の前にいる事例であったことが、2学期からの対応の参考になった。 ・医学的な面から見てみると、また違った対応の仕方があることに気付いた。研究会は病院での対応をどうしているのかなども聞くことができるとよかったかと思う。 ・発達段階にあった指導が大切なことを改めて感じた。 ・一生徒を違った観点から見る大切さは実感したが、参考になる助言は少なかったと思う。 ・もう少し学校内で情報交換し、生徒像を講師がしっかり描けるような資料に基づいた研修がよかったのでは。 ・情報を集め、整理し、仮説を立てるという流れを通して、かかわり方の糸口のつかみ方が学べた。 ・意見交換でき、事例研究会の在り方を学べた。 	

資料3-⑤ (ア) 「アセスメントの仕方」の研修後のアンケート結果

(回答数 34人)

① 不適応行動の軽減の支援方法が	回答数
理解できた	21人
もっと研修したい	9人
よくわからなかった	4人
② 不適応行動の軽減の支援方法の活用について	
活用している	3人
今後活用したい	23人
もっと具体的に研修したい	8人

(感想)
<ul style="list-style-type: none"> ・支援方法を知り視野が広がった。 ・具体例が挙げられていてわかりやすかった。 ・先行因子が見えてこない時は、どうしたらよいか知りたい。 ・ただ漠然と考えているだけでなく、このような形式を利用すると整理がつくと思った。 ・活用してみたい。

資料3-⑥ ア 「校内支援体制作り」の研修後のアンケート結果

(回答数 33人)

① 校内支援会議の必要性について	回答数
チームでかかわる必要性はある	32人
チームでかかわる必要性はない (担任個人でやるので)	1人
必要ない	0人
② 不適応行動の軽減の研修	
今後も取り組む必要がある	27人
取り組む必要はない	0人
個別に研修していくとよい	6人

(感想)
<ul style="list-style-type: none"> ・会議を開いてみてどんなものか様子がわかった。 ・お互いに連携をとることの大切さを感じた。 ・全職員が共通して研修するのを感じた。ただし、観察や個の理解を十分に。 ・勉強になった。 ・小集団にして話し合うとよいと思う。 ・気軽に話し合える場がほしい。チームで取り組めるのはよいと思う。 ・全体を通し研修の必要性は感じるものの、時間的な余裕がないように思う。 ・本人にかかわる全職員で指導方針を検討し、共通理解できると良いと思う。 ・様々な不適応行動があるので、生徒にかかわりのある職員で検討し、その後、全体に意見を求めると効率がよいと思う。 ・支援計画を作成するにあたっての資料は改善する必要がある。書くのが難しかった。

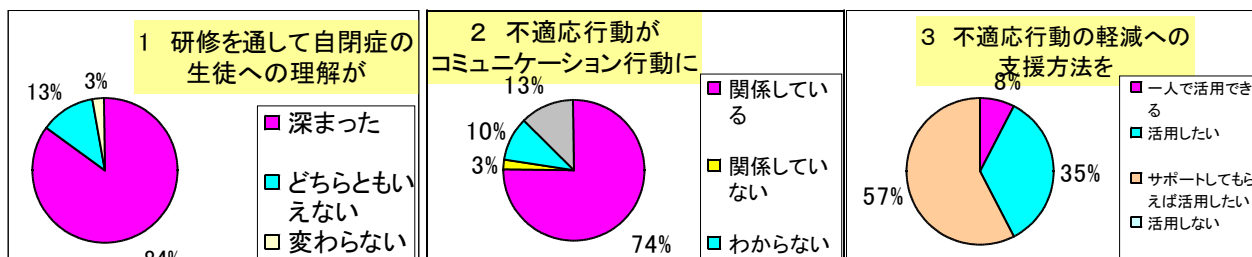
資料3-⑦ イ 「校内支援会議の進め方」の研修後アンケート結果

(回答数 12人)

(感 想)	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語が多く、(担任が作成する)資料作りが大変。 ・資料の形式が難しかった。 ・担任はだれかに話を聞いてもらえるだけでうれしい。 ・事例を提供した先生方の一生懸命さが伝わってきた。 ・学年末の支援会議資料(個別の教育支援計画)を元に話し合えれば、良いのではないか。担任は、精神的に救われる。 ・このような会議がもっとフランクに(日常的に)できるとよいと思う。 ・担任が課題を抱えるのではなく、仲間ともっと共有して一緒に行動できる教師集団でありたいと思う。 ・私のクラスの生徒にも、その生徒にかかわる先生方でこのような話し合いがしたい。 ・このような(会議がそして意識の)輪が広がるとよい。 ・検討する時間がもう少しあった方が良かったと思う。 ・複数の眼による分析・検討はとても大切だと実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人にかかわる全ての職員の指導方針を徹底していくために、関係職員が集まる場を設定することが大切だと思う。 ・共通の様式に各事例を当てはめるのは、大変な作業だったとのこと。客観的に見やすい(課題を共有しやすい)資料であったし、最終的には事例を出した先生の整理にもなったと思う。 ・「悩みを打ち明けあう」のではなく、焦点をはずさないように会議が進められたと思う。 ・教員としての経験・特別支援教育での経験が浅いメンバーにとっては、チームでかかわれたり、事例を検討できたりすることが励みになる。ベテランの先生方のアドバイスや経験談から活路を見出し、安心して背中を後押ししてもらえることがこの会議を通してできると思う。 ・生徒と授業等でかかわりのある職員で会議すると、よい支援方法が話し合えると思う。

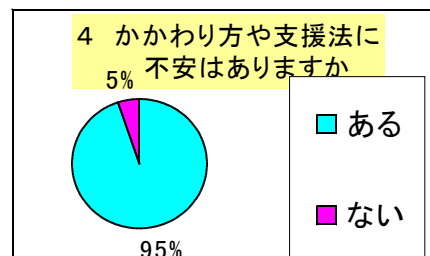
資料3-⑧ 年度末アンケートの結果

(回答数 32人)



4 自閉症の生徒へのかかわり方や支援方法に不安がある場合、その内容は？

- ・自閉症の生徒のかかわり方や支援方法は個々に違うのでこれでよいということはない。(9人)
- ・一人一人支援方法が違うので、不適応行動が起きる生徒の実態をつかむまで不安である。(5人)
- ・適切な支援方法が見つかるまで不安、計画したものが最良か不安(7人)
- ・一人では不安。チームを組み、支援したい。(3人)
- ・不適応行動(パニック・大声)の時に不安である。(5人)
- ・コミュニケーションのとり方が分からない時がある。
- ・知識を得ただけで、すべてに当てはまるわけではないと思う。
- ・自閉症についての理解が足りない。
- ・学校と家庭との連携の重要性を感じる。保護者への啓発も大切である。
- ・ケース・観察による方法論がまだ確実ではないのではないかと不安。
- ・性的な問題をかかえた生徒の支援方法が不安。
- ・人の考えや意見を聞いて取り組んでいきたい。支援会議は意義がある。
- ・自分のもつ生徒への支援がよいのか、そのためにも支援会議は必要。
- ・ケースバイケースでその都度支援方法を考えたらと思う。
- ・何がスイッチになり、どういう行動をしたかの観察に時間を要し理解したつもりでも、うまくいかない時がある。
- ・支援方法の見解が分かれた時、支援方法の決め手は？状態を後退させる場合もあるので不安。
- ・アプローチの仕方も一つではないと思う。ただ、支援方法を全員で確認しながらチームで取り組んでいく姿勢は大切だと思う。
- ・個に応じた支援方法も大切。全体の中で自閉症の生徒をどう指導していくかも大切。また、まわりの生徒へ自閉症の生徒の理解を進めることも大切である。



資料4 「自閉症のコミュニケーションの指導」 についての研修に向けて筆者の研修

<p>① 7月26日(火)群馬県立榛名養護学校 公開講座「榛名大学」 内容「自閉的傾向児の理解と支援」 (動作法によるコミュニケーション指導) 講師 須田 裕 先生(榛名養護学校)</p>
<p>② 8月26日(金)桐生市立養護学校 内容 自閉症の支援方法「太田のステージ」 (認知面からの指導) 講師 大澤 一弘 先生(桐生市立養護学校)</p>
<p>③ 8月30日(火)長野県若里市民ホール 内容「自閉症を正しく理解すること」 ～自閉症の人たちの生涯を通した トータルケア～TEACCHプログラム 講師 ゲーリー・メジホフ 先生 (ノースカロライナ大学TEACCH部部长)</p>
<p>④ 8月31日(水)群馬県立渡良瀬養護学校 しろがね分校 内容 自閉症の支援方法「マカトン」の 概論と指導の実際について 講師 土橋 恵津子先生(しろがね分校)</p>

- 〈研修の参考にした文献〉
- ・大野 清志・村田 茂 著 『動作法 ハンドブック』
慶応義塾大学 出版会 (1993)
 - ・太田 昌孝・永井 洋子 著 『自閉症治療の到達点』
日本文化科学 社 (1992)
 - ・太田 昌孝・永井 洋子 著
『認知発達治療の実践マニュアル』
日本文化科学社 (1992)
 - ・佐々木 正美 著 『自閉症療育ハンドブック』
-TEACCHプログラムに学ぶ-学習研究社 (1993)
 - ・佐々木 正美 著 『自閉症児のための絵で見る構造化』
学習研究社 (2004)
 - ・佐々木 正美 著 『自閉症のTEACCH実践』
岩崎学術出版社 (2002)

資料5 事例研究会資料の様式例

○事例研究会資料の様式例(1)

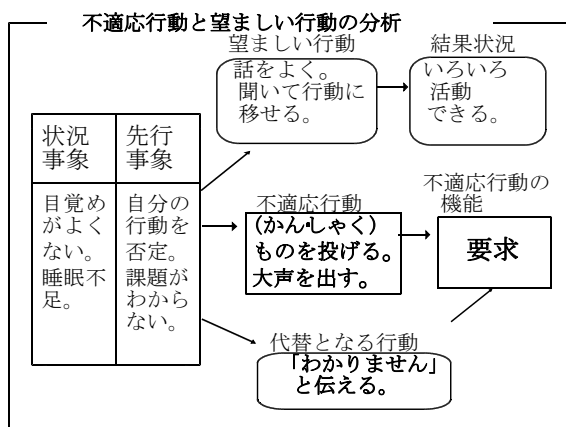
<p>(Aさんの日常よくあること)</p> <p>～ある場面の様子を表現～</p> <p>(課題点)</p> <p>Aさんの課題を短い言葉で表現する。</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>(指導)</p> <p>担任がどのように支援しているか 具体的に書く。</p> <p>1</p> <p>2</p>
--

○事例研究会資料の様式例(2)

<p>(Bさんの気になる行動)</p> <p>「 」(←端的に表現する)</p> <p>(担任の思い)</p> <p>～上記の行動を担任としてどのような生徒の姿を描いているのか書く。</p> <p>.</p> <p>(Bさんの様子)</p> <p>～Bさんの様子を具体的に表現する。</p> <p>(支援の方法)</p> <p>担任の支援とその効果について表記する。</p>

資料6 校内支援会議の事例

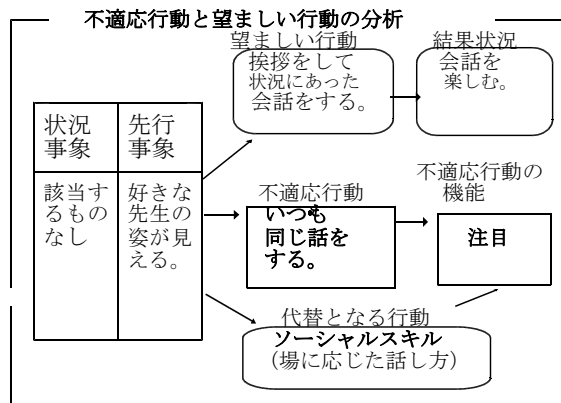
事例1



行動が引き起こす状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
生活リズムを整える。(家庭と連携)	健康調査をする。「こうするといいよ」の言葉かけをする。(否定しない)	援助を求める適切な言葉を教える。	援助を求めたら、より簡単な課題に取り組めるようにする。

- (検討事項) ・言葉の量を増やすこと
- ・「太田のステージ」の課題学習をする。
 - ・考える時間の確保
 - ・自己決定・選択の場を増やす。

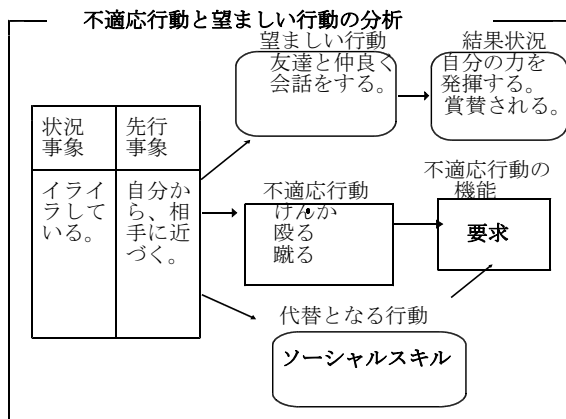
事例2



行動が引き起こす状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
家庭と連携	今やるべきことを示す。スケジュールを表示する。	適切な言葉で教える。相手の感情を考慮するようにする。	意味のある言葉に注目できるようにする。会話を楽しんでいることを伝える。賞賛する。

- (検討事項) ・繰り返しのある話や言葉が出た時は、無視をして出ないようにする。
- ・職員で役割分担が必要。

事例3



行動が引き起こす状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
気持ちの安定を図る。注意や指示を減らす。	刺激をしない。落ち着くようにする。	好ましいかわり方を教える。	落ち着いて授業を受けられたら賞賛する。

- (検討事項) ・本人の情緒の面で担当が味方になる。
- ・身体を動かす活動を入れる。
 - ・善悪の区別をする。

資料7-① 不適應（適切でない）行動の記録用紙

資料

対象者氏名		年齢		性別	男 女
記入年月日	年 月 日	記入者			

順位	①不適應行動	②どのように行動しているか	③頻度 回数/一定時間	④持続時間	⑤強さの様子
例1	自分の腕を噛む	手の甲を繰り返す	8～10回/1日	5～10秒	出血するまで
例2	相手をたたく	体のどこでも	1～2回/1日	一瞬	赤くなる位

↑

下の表を基準にして気になる順に順番をつけましょう。

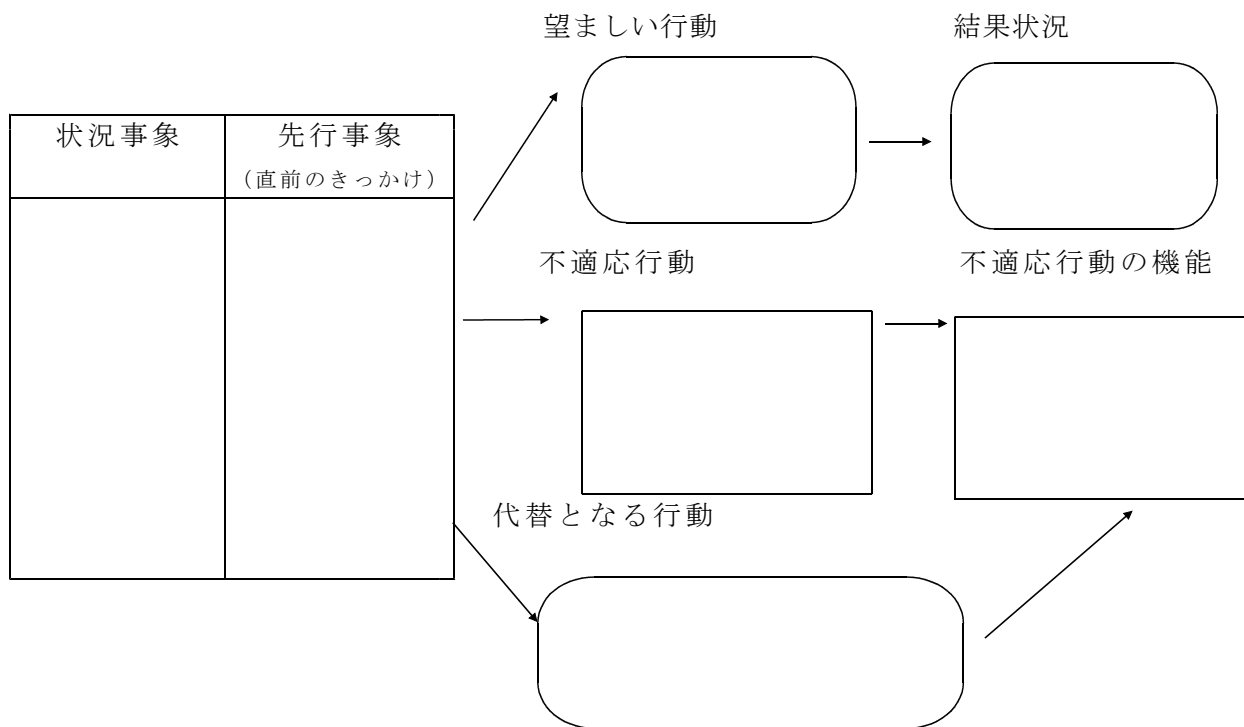
- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の身体・健康上に著しい危険をもたらす。 ○ 他者の身体・健康上に著しい危険をもたらす。 ○ だれもが有意義と認める学習や活動などへの参加を著しく妨げる。 |
|--|

資料7-② 不適応行動の機能の確認

		なし	ごくたまに	ときどき	半々くらい	たいていて	ほぼたいてい	いつも	A	B	C	D
1	長い間放っておかれるとその行動を繰り返しますか？	0	1	2	3	4	5	6				
2	難しいことを求められるとその行動を繰り返しますか？	0	1	2	3	4	5	6				
3	あなたがその生徒のいる教室で他の生徒や大人にかかわっているとその行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
4	何か（食べ物・おもちゃ・活動など）を禁止された時にそれを得ようとその行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
5	周りに誰もいないとき、その行動を長時間繰り返しますか？	0	1	2	3	4	5	6				
6	何かするように要求したとき、その行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
7	あなたが注意をそらしたとき、その行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
8	好きな食べ物・もの・教材・行動などを禁止すると、その行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
9	その行動を楽しんでいるようですか？（その行動で、体感、味、臭い、音など快感を得ている）	0	1	2	3	4	5	6				
10	あなたが何かさせようとする、あなたをあわてさせたり、困らせるためにその行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
11	あなたが注目していないとその行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
12	欲しがっていた（食べ物・おもちゃ・活動）が与えられるとその行動はしなくなりますか？	0	1	2	3	4	5	6				
13	その行動をしていると、周りで起こっていることに気づかないでし続けていますか？	0	1	2	3	4	5	6				
14	あなたがその生徒に何かを要求するのを止めると（5分以内）その行動をしなくなりますか	0	1	2	3	4	5	6				
15	あなたを独占したいためにその行動をしますか？	0	1	2	3	4	5	6				
16	やりたいことを「してはだめ」と言われると、かえってその行動が強くなりますか？	0	1	2	3	4	5	6				

平均（合計÷4）（少数第二位四捨五入）				
	感覚	逃避	注目	要求
推定される機能は（ ）である。※高得点のものが推定される機能				

資料7-③ 不適応行動と望ましい行動の分析



資料7-④ 支援計画

行動が生起する状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
評価 (実施 年 月 日 ~ 年 月 日)			

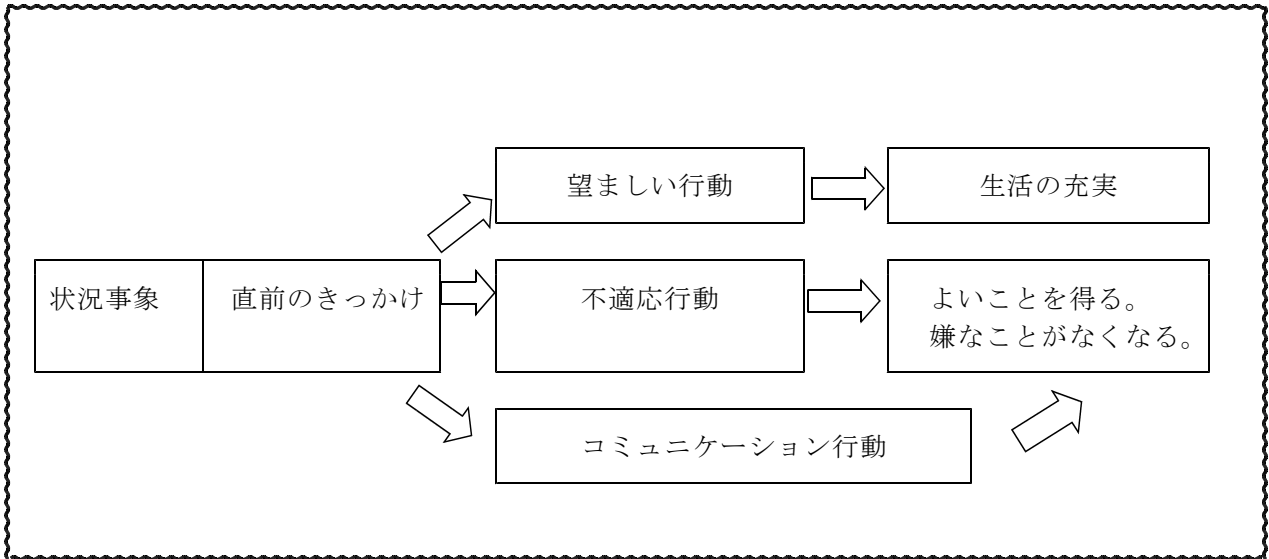
資料7-⑤ 支援会議

第 () 回 「 」 の対応について	
年 月 日 時～ 参加者	
1	不適応行動についての現状と要因・・・資料7-①、②、③
2	支援方法の検討・確認 資料7-④
3	役割分担
4	次回の日時 年 月 日 時～

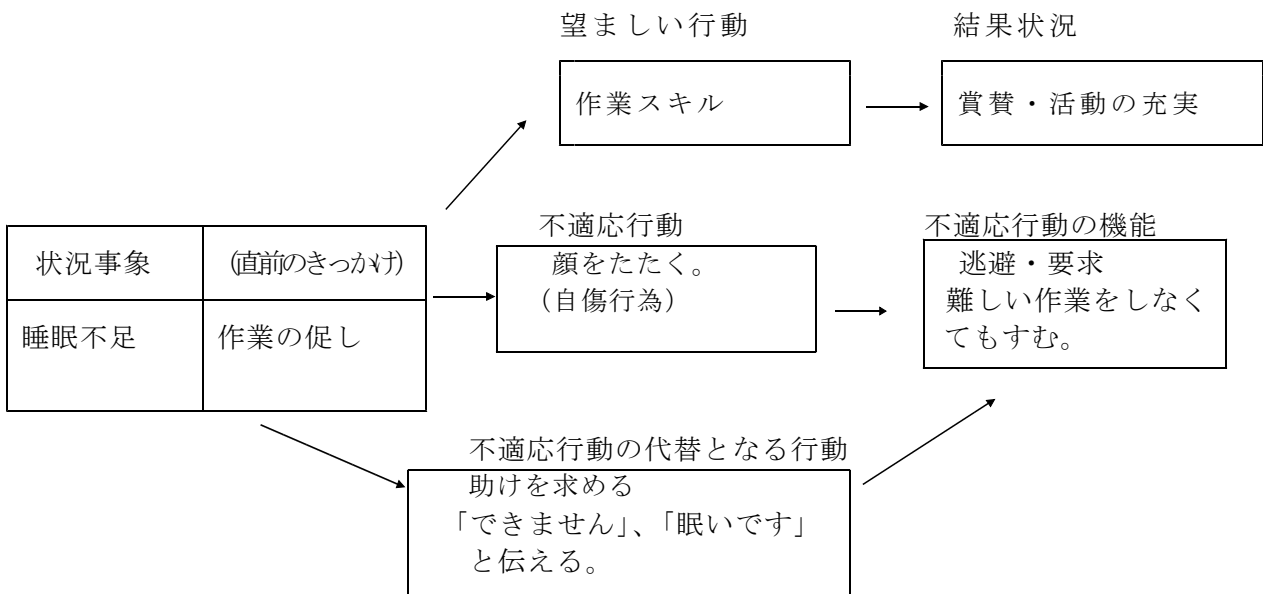
資料8 機能とコミュニケーションの意図

不適応行動の機能		コミュニケーションの意図 (メッセージ)
注目	注目やかかわりを得ている。	「私と遊んでください」 「私がしていることを見て」 「私はきちんとやりましたか？」 「私と一緒に時間を過ごして」
要求	活動、もの、食べ物を手にいれている。 してほしいことを得ている。	「私もやりたいです」「あれがほしいのです」 「おなかがすきました。何か食べたい」 「身体がだるいです。〇〇が痛いです」 「手伝って、一緒にやって」
逃避	望まない状況を終わりにしている。あるいは、避けている。	「やりたくありません」「やれませんが」 「飽きました」「楽しくありません」 「一人にして」 「難しいです。わかりません」 「疲れました」「だるいです」
感覚刺激	好きな感覚を得ている。	「これをやるのが好きなのです」

資料9 行動の理解の枠組みと例示

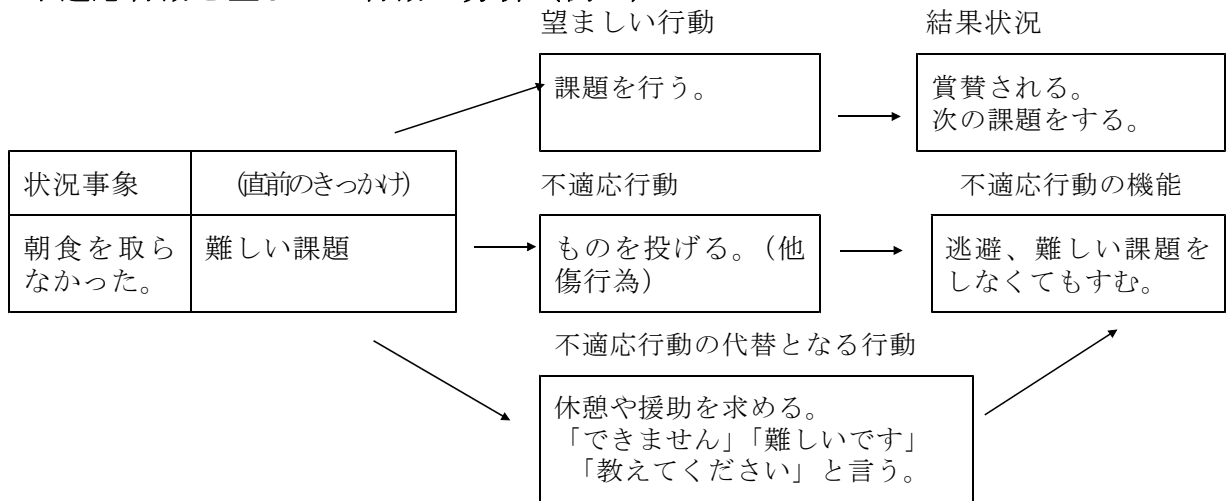


○ 不適応行動と望ましい行動の分析（例1）



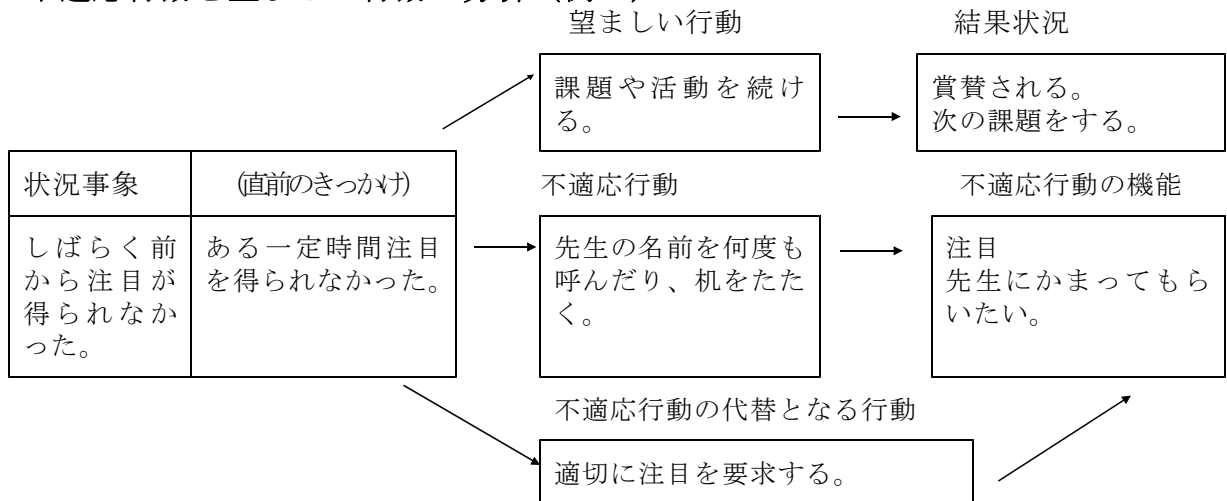
行動が生起する状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携 ・入眠時間の確認 ・休憩時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査をする。 ・活動の確認（相談しながら作業をする。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な作業へ変える。 ・体調不良時には伝えることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に作業をする。 ・簡単な作業に切りかえ、できたことを賞賛する。

○ 不適応行動と望ましい行動の分析 (例2)



行動が生起する状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携 朝食を食べてこなかったら、何か食べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康調査をする。 課題は簡単なものと難しいものが含まれるようにする。 自分で課題を選ぶようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生の名前を呼ぶことを教える。来るまで待つことを教える。 先生に援助を求める方法を教える。「できません」「難しいです」と伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 援助を求めて来たら、課題が終わるように一緒に課題を解く。 ものを投げたら、課題の方に注意が向くように言葉かけをする。

○ 不適応行動と望ましい行動の分析 (例3)



行動が生起する状況への支援		行動への支援	結果への支援
状況事象	先行事象		
<ul style="list-style-type: none"> 1日の中で友達と共同して行う活動を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題を行っている最中に、一定時間ごとに様子をたずねる。 課題が始まる前に、適切に注目を要求するように思い出させる。(課題の修正) 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に注目を要求する方法を教える。 すぐに注目されなくても我慢できるように教える。 一人で課題に取り組めるよう、簡単な課題から取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 叫びだしたり、机をたたき出したら、それらの行動を無視する。 適切に要求をしてきたら注目する。

資料10 自閉症の行動特徴における支援

行動の特徴	支援の方法
○聴覚からの情報より目からの「視覚的」情報を理解しやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉と一緒に、写真や絵、文字、ジェスチャーなどでも提示する。 ・言葉で伝えようとするときには、具体的な言葉で、「一（いち）、〇〇します。二（に）、〇〇します。」など短く区切って伝える。 ・好ましくない行動をとった時は、その場で短くわかりやすい言葉で伝える。 ・その日の予定を目でわかるように提示する。
○状況を理解することや心の状態を推測することが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・はっきりと名前を言い、わかりやすくゆっくりとした話し方をすること。 ・場所と活動を一対一対応させ、その場が何の場かわかるようにする「構造化」が大切である。
○手順の変更などへの対応が苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> ・日課の変更はなるべく避ける。 ・身辺処理や作業手順も一定期間は固定すると流れを予測しやすい。 ・変更が予めわかれば、事前に教材を使って視覚からもわかる形も合わせて説明する。 ・普段から変更に慣れることも大切。予定変更を伝える方法を作っておく。
○課題の始まりと終わりを認識するのが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題に対して見通しがもてないと不安になったり集中して取り組みなかつたりするので、どのような順番で、どのくらいの時間行ったら終わるかを目でもわかるように示す。 ・「始めます」「終わります」の号令をかけさせ、後片付けを一緒にしたりすることによって始まりと終わりを意識できるようにする。 ・そのときの調子が良くても、延長や追加は避ける。
○人とのかかわりが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの好きなことや活動を見つけ、子どものそばで活動を模倣する。 ・工夫次第で活動を共有していくことができる。 ・個の活動を生かし集団活動を組む。同じ場での活動や役割を継続的に行う。
○特定の音や声やものに反応する。	<ul style="list-style-type: none"> ・窓にカーテンを引き、黒板の周囲の掲示物を少なくし、不必要な刺激をしゃ断する。 ・教材の提示は一つずつはっきりと行い、どこに注目してよいかわかりやすくする。
○こだわりがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に活用するためにこだわりを係の仕事などに利用する。 ・楽しみとしてこだわりを活用する。
○不適応行動がコミュニケーション手段の一つとなる場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・不適応行動には、①感覚 ②逃避 ③注目 ④要求がある。不適応行動そのものをやめさせようとするのではなく、その行動と同じ機能をもつコミュニケーション行動を新たに形成する。 ・不適応行動を起こした時の対応の仕方も重要。対応の仕方によっては、さらに不適応行動を引き起こす（強化）原因になる。一時的におさまっているだけか様子を観察し、児童生徒を取り巻く環境を見直してみることも重要。

参考資料（北九州市立養護教育センターH14研究紀要）